

事業所名

てとてきっず

支援プログラム(児童発達支援)

作成日

令和

6年

12月

11日

法人(事業所)理念		○人に愛され愛する心を育みます ○地域・社会から愛される施設作り。		
支援方針		○集団支援で社会性やコミュニケーションを学びます。 ○個々の特性や能力に応じた日常生活に必要な福祉サービスの提供に努めます。		
営業時間		9時00分から18時00分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	○毎日の健康管理を行いながら、発達の過程・特性等に配慮し、心身に関する異変に気付けるよう観察を行います。 ○その日の睡眠、食事、排泄等の状況を確認し、生活リズムと体調のつながりを意識した支援を行います。 ○身の回りを清潔にし、食事や衣類の着脱、排泄等の生活に必要なスキルの獲得を目指します。 ○さまざまな遊びを通して学習できるよう、障がい特性に応じて環境調整を行います。		
	運動・感覚	○歩く・走る・飛ぶ・くぐる・投げる・掴むことや道具を使用した活動等を通じ姿勢の保持ができ、手足や体のスムーズな動きの獲得を目指します。 ○発達の過程や特性に合わせた運動・遊び・工作活動等を経験し、視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を統合的に活用できるよう支援します。 ○持っている運動機能・バランス感覚・力の強弱・距離感等の様々な体の感覚・感触を理解し、生活に活かせるよう工夫します。 ○個々の感覚特性に配慮し身体をコントロールするための支援を行いながら、感覚の偏りに対して環境調整を行います。 ○楽しく自発的に活動ができるよう屋内・屋外の遊びや運動を取り入れ、環境の変化や季節を感じる事で、経験の幅を広げていきます。		
	認知・行動	○個々の特性に応じた視覚・聴覚・触覚等の感覚を活用し、必要な情報を収集し、認知機能の発達を促します。 ○様々な広さの空間での遊びや創作活動を体験したり、ブロックやボール等の色・大きさ・形・重さの違う対象物を用いた活動を通じて認知形成を目指します。 ○行動の手順や予定等を視覚的に分かりやすく示すことで、混乱や迷いを減らし、見通しを持って行動できるよう支援します。		
	言語 コミュニケーション	○遊びや活動の中で、他者への関心・興味を促し、「楽しい」や「もう一度やりたい」等の気持ちを引き出していきます。 ○要求や拒否の気持ちも人に伝えることができるよう支援します。 ○絵カード・ジェスチャー等を用いた多様なコミュニケーション手段を活用し、自身にとってより良い表現方法を伝えます。 ○個々の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行います。		
	人間関係 社会性	○集団遊びの中で、ルールや順番を理解し、周りの状況に気づき行動できるよう支援します。 ○対大人・対友だちとのやり取りの中で、人間関係や社会性の基礎となる経験を積めるよう支援します。 ○大人が介在することで、自分の状況・行動・気持ちの理解を促すとともに、自分自身でも気持ちが調整できるよう支援します。		
家族支援	連絡帳や、送迎時の会話などで情報共有をし、必要に応じて面談を設け、不安や困りごとへの相談援助を行います。	移行支援	保育園、幼稚園や関係機関との情報交換や会議を行い支援します。また、卒園後やその他の移行先にスムーズな移行ができるよう関係機関と連携を図ります。	
地域支援・地域連携	地域のイベントや交流会に参加し、地域社会との交流を深める。また、協議会に参加し関係機関との連携を図りながら適切な支援を提供できるようにします。	職員の質の向上	○全事業所合同での管理者会議の実施 ○研修会の参加と伝達講習 ○虐待、感染研修の実施	
主な行事等	○農作業体験(芋さし、芋ほり、みかん収穫など) ○ガーデニング活動 ○夏祭りやクリスマスなど、季節ごとのイベント ○社会体験(電車、バス乗車体験・外食体験・お買い物体験など) ○学童クラブとの交流 ○外出活動(動物園、水族館、宇宙科学館など) ○社会見学			

事業所名

つくしんぼ・クローバー・てとてきっず

支援プログラム(放課後ディサービス)

作成日

令和

6年

12月

11日

法人（事業所）理念		○人に愛され愛する心を育みます ○地域・社会から愛される施設作り。		
支援方針		○集団支援で社会性やコミュニケーションを学びます。 ○個々の特性や能力に応じた日常生活に必要な福祉サービスの提供に努めます。		
営業時間		9 時 00 分から 18 時 00 分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	○毎日の健康管理を行いながら、発達の過程・特性等に配慮し、心身に関する異変に気付けるよう観察を行います。 ○その日の睡眠、食事、排泄等の状況を確認し、生活リズムと体調のつながりを意識した支援を行います。 ○身の回りを清潔にし、食事や衣類の着脱、排泄等の生活に必要なスキルの獲得を目指します。 ○さまざまな遊びを通して学習できるよう、障がい特性に応じて環境調整を行います。		
	運動・感覚	○歩く・走る・飛ぶ・くぐる・投げる・掴むことや道具を使用した活動等を通じ姿勢の保持ができ、手足や体のスムーズな動きの獲得を目指します。 ○発達の過程や特性に合わせた運動・遊び・工作活動等を経験し、視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を統合的に活用できるよう支援します。 ○持っている運動機能・バランス感覚・力の強弱・距離感等の様々な体の感覚・感触を理解し、生活に活かせるよう工夫します。 ○個々の感覚特性に配慮し身体をコントロールするための支援を行いながら、感覚の偏りに対して環境調整を行います。 ○楽しく自発的に活動ができるよう屋内・屋外の遊びや運動を取り入れ、環境の変化や季節を感じる事で、経験の幅を広げていきます。		
	認知・行動	○個々の特性に応じた視覚・聴覚・触覚等の感覚を活用し、必要な情報を収集し、認知機能の発達を促します。 ○様々な広さの空間での遊びや創作活動を体験したり、ブロックやボール等の色・大きさ・形・重さの違う対象物を用いた活動を通じて認知形成を目指します。 ○行動の手順や予定等を視覚的に分かりやすく示すことで、混乱や迷いを減らし、見通しを持って行動できるよう支援します。		
	言語 コミュニケーション	○言葉・文字・ジェスチャー等を用いた多様なコミュニケーション手段を使って相手の意図を理解したり、自分の考えを伝える支援を行います。 ○場面や人との相互作用を通じて、コミュニケーション手段の獲得を目指します。 ○教材などを通じて、個々の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行います		
	人間関係 社会性	○周囲の人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤とし周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 ○集団遊びや経験を通じてルールや順番を理解し、周りの状況に気づき行動できるよう支援します。 ○大人が介在することで、自分の状況・行動・気持ちの理解を促すとともに、自分自身でも気持ちや情動の調整ができるよう支援する。 ○個々の特性を理解し状況や状態に応じて、個別の活動から集団活動へ移行できるよう支援する。		
家族支援		連絡帳や、送迎時の会話などで情報共有をし、必要に応じて面談を設け、不安や困りごとへの相談援助を行います。	移行支援	学校や関係機関との情報交換や会議を行い支援します。また、卒業後やその他の移行先にスムーズな移行ができるよう関係機関と連携を図ります。
地域支援・地域連携		地域のイベントや交流会に参加し、地域社会との交流を深める。また、協議会に参加し関係機関との連携を図りながら適切な支援を提供できるようにします。	職員の質の向上	○全事業所合同での管理者会議の実施 ○研修会の参加と伝達講習 ○虐待、感染研修の実施
主な行事等		○農作業体験(芋さし、芋ほり、みかん収穫など) ○ガーデニング活動 ○夏祭りやクリスマスなど、季節ごとのイベント ○社会体験(電車、バス乗車体験・外食体験・お買い物体験など) ○学童クラブとの交流 ○外出活動(動物園、水族館、宇宙科学館など) ○社会見学		